

新型ロコトラック LT200HPX の紹介

宇部興産機械株式会社
産機営業部 社会インフラ営業 Gr
主席部員 高山 哲典

1. はじめに

Metso-Outotec 社（以下 Metso）がこの度 LT200HP シリーズの新型モデル（LT200HPX）を発売したので、その概要、構造、特長、仕様を紹介する。

2. ロコトラック LT200HPX の概要

ロコトラック2次破碎機である LT200HP シリーズは、スクリーン無しモデルの LT200HP（図1）とスクリーン付きモデル LT200HPS（図2）の2種類が販売されており、国内でも10台が稼働している。設計がコンパクトであることから、1次破碎機と LT200HP もしくは LT200HPS の2台で-40 mmの生産が現場で簡単にできることから多くの顧客様よりご好評をいただいている。

この度、Metso では、2次破碎機が多機能化、能力UPのニーズに応えるために、投入コンベヤと2次破碎機との間にスクリーンを設けた LT200HPX（図3に写真を示す。）22年1月より日本で発売をすることとなった。



図3 ロコトラック LT200HPX

3. ロコトラック LT200HPX の構造と特長

① ロコトラック LT200HPX の構造

図4にロコトラック LT200HPX の全体構造図を示す。

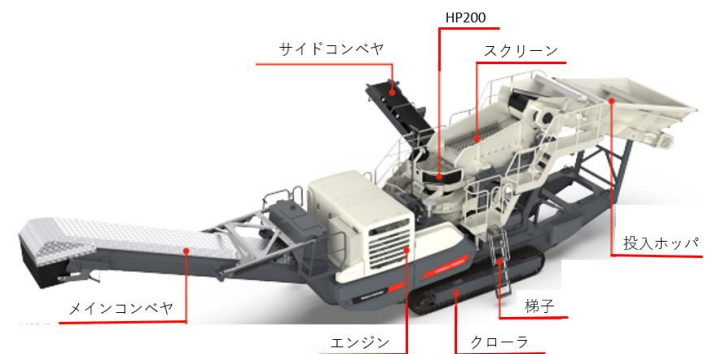


図4 ロコトラック LT200HPX 構造図

投入された原料は投入ホッパーからベルトフィーダーによりスクリーンへ送られる。スクリーンで一次選別された原料のオーバーサイズは、HP200（コーンクラッシャー）に投入され破碎される。スクリーンアンダーはサイドコンベヤで機外に排出することも可能である。また、メインコンベヤで HP200 の破碎品と一緒に機外に排出することもできる。



図1 ロコトラック LT200HP



図2 ロコトラック LT200HPS

図5にスクリーンからHP200への原料流れを示す。



図5 LT200HPX 原料流れ図

② ロコトラックLT200HPXの特長

HP200の前にスクリーンがついているため、原料の一次選別が可能である。選別されたスクリーンアンダーは機外排出することにより1台の破碎機で2種類の製品の生産ができる(図6、7、8)。また、HP200の投入前で一次選別(例えば-40 mm)をすることで、HP200の負荷を低減でき、その分一次選別をしない場合(LT200HP)より処理量大きい。(同様の条件でLT200HP(スクリーン無し)に比べ20~30%能力がUPする。)(図9)



図8 LT200HPX スクリーン



図9 LT200HPX 稼働状況

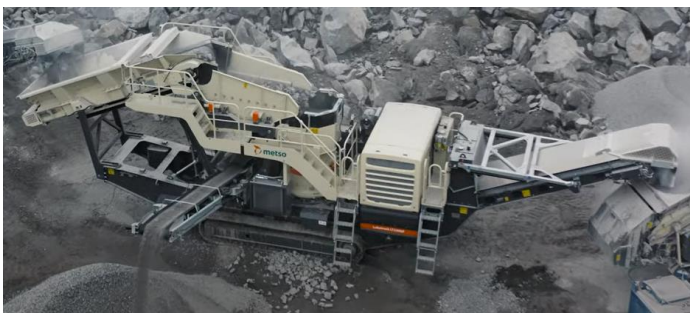


図6 LT200HPX サイドコンベヤ



図7 LT200HPX スクリーン

4. ロコトラックLT200HPXの仕様

- ① 寸法、重量(運転時)
 - 長さ：19,000 mm
 - 幅：3,000 mm
 - 高さ：3,500 mm
 - 重量：42 トン
- ② ホッパー：9 m³
- ③ スクリーン：TK12-26-2V (2段)
- ④ サイドコンベヤ：幅 650*6,000 mm
- ⑤ 破碎機：HP200 コーンクラッシャ
(GP200 コーンクラッシャへの変更が可能)
- ⑥ メインコンベヤ：幅 1,200*12,000 mm

- ⑦ エンジン：CAT9.3B（310kW）
 - ⑧ 投入最大隗：約 200 mm以下
 - ⑨ 処理能力：200-300 t/h（※1）
- （※1：使用条件により変動する。）

5. おわりに

1992年に日本1号機のロコトラックが日本に導入されて今年で30年周年を迎える事となった。その間に日本の顧客様に厳しい改善の指摘をいただきながら、ロコトラックは日本の顧客様の声により育てて頂いた機種だと思ふ。IT、IOT、SDGs、CO₂の削減等30年前は全く存在しなかった言葉が飛び交う世の中であるが、情勢を敏感に感じながら、顧客様のニーズをいち早くとらえ、日本全国のUMCのサービスネットワークとセットで良い商品をこれからも提供しつづけていきたいと考える。Metsoの商品が顧客様の今後の設備投資検討の参考となれば大慶の至りである。

以上